



UPSilon 2000

無停電電源装置用ソフトウェア

ユーザー・マニュアル

対応OS

Microsoft Windows 95

Microsoft Windows 98

Microsoft Windows NT

Microsoft Windows 2000

Microsoft Windows ME

Microsoft Windows XP

Novell Netware, Linux, FreeBSD

COPYRIGHT アナウンスメント

ソフトウェアの保証の制限

表現され、または含意されている内容につき、本プログラムと同封の材料がどんな種類の保証なしに「ありのまま」提供されます。その特定の目的のための販売・使用されるときは黙示的な保証となります。プログラムと同封の材料の品質と性能に関する全体の機器管理はあなた自身に戻します。

救済法の制限

あなたが「保証の制限」下で記述される状態を満たしたならば、Mega System Technologies Incorporationの責任としてあなたの障害を治すためにプログラムメディア等の交換を行います。

Mega System Technologies, Inc. は本プログラムの使用による、いかなる損害に対して賠償をおこなう責務を負うものではありません。

各商標は、全てそれぞれの商標または登録商標であります。

技術サポート

UPSilon 2000は Mega System Technologies, Inc.により開発されました。質問がある時は下記宛に詳しい内容を明記して、英語にてお問い合わせください。

Mega System Technologies, Inc.

Tel: +886-2-87922060

Fax: +886-2-87922066

CompuServe ID#: 101400,362

E-MAIL: service@megatec.com.tw

FTP: <ftp://ftp.megatec.com.tw>

WWW: <http://www.megatec.com.tw>

Copyright 1999-2001 by: Mega System Technologies, Inc.

やさしいインストール Windows 95, 98, NT,2000,ME, XP

◆ ハードウェアのインストール(p3参照)

1. UPSコミュニケーションポートにUPSilon 2000ケーブルの雄コネクタを接続してください。
2. システムのRS-232コミュニケーションポートにUPSilon 2000ケーブルの雌のコネクタを接続してください。25ピンRS-232コネクタしかないときは、変換アダプタを使い25ピン=>9ピンで使用してください。

◆ ソフトウェアのインストール(p5参照)

1. UPSilonソフトウェアディスク(またはCD)をディスクドライブ(またはCDドライブ)に挿入してください。
2. スタートメニューの“実行”ボタンを選択して、setup.exeを実行してください。
3. インストールの後、Windows 95/98については、タスクバーの中に“Rupsmon Daemon”アイコンがあるかをチェックしてください。Windows NTに関しては、“コントロールパネル->サービス”を動かして、“Rupsmon”サービスが開始されたかどうかチェックしてください。(p6参照)
4. “UPSilon 2000 for Windows”をクリックしてください。(p7参照)
5. “Select UPS”をクリックし、ローカル又はリモートUPSを選択します。(p8参照)
6. メインスクリーンで“Settings”をクリックし、“Communication Type”と“Select Comm Port”を入力してください。“Communication with UPS”が表示されれば、UPSとうまく通信できています。
(p9参照)

いずれも詳しくは本文の該当ページをご覧ください。

目次

1.	はじめに	1
1.1	同梱品	2
1.2	システム環境	2
2	ハードウェアのインストール	3
3	UPSilon 2000 for Windows	4
3.1	特 徴	4
3.2	ソフトウェア・インストール	5
3.3	UPSILON2000の開始とアンインストール	6
3.3.1	UPSilonのスタートアップ	6
3.3.2	UPSilonのアンインストール	6
3.4	機 能	7
3.4.1	UPS 動的ディスプレイエリア	7
3.4.2	UPS状態エリア	8
3.4.3	ファンクション機能エリア	8
3.4.3.1	UPSの選択	8
3.4.3.2	設定 (Settings)	10
3.4.3.3	スケジュール	16
3.4.3.4	データログ	17
3.4.3.5	イベントログ	18
3.4.3.6	ヒストリーログ	18
3.4.3.7	制御	19
3.4.3.8	クローズファイルの記録	19
3.4.3.9	UPSilonについて	20
3.4.3.10	UPSilonの終了	20

1. はじめに

UPSilon2000はSmartUPS(注)をモニターし、制御するソフトウェアです。UPSilon2000はデジタルおよびグラフィカルにUPSの状態(例えば、電圧、周波数、負荷、温度およびバッテリー容量)を表示します。ユーザーが電源の品質をモニターするのを手助けします。また、他のUPSilon2000をネットワークを通してUPSのリモートモニタリングすることにより効果的に電源を管理することができます。電源異常かUPSバッテリー電圧低下のときに、UPSilon2000はそのモニターした結果を、自動的に、警告メッセージとしてページまたは電子メールとしてユーザーに通知します。

さらに、UPSilon2000は新しいWindows サービス機能を提供しています。(ログインする前の自動起動)、そしてUPSilonは多国語で利用できます。あなたのソフトウェア構成と操作をより有効に実行するようにUPSilonはご利用いただけます。今日、インターネットは、PCに使用されるだけでなく、Serverとして1日24時間情報を受け付けて、それをまた送信します。それらのサーバを守るために、無人自動化でのパワーマネージメントはUPSの必須の機能となります。UPSilon2000は完全な機能を持ち、あなたのSmartUPSの最も良いパートナーになることを心より願っています。

(注: SmartUPS:RS232Cシリアル通信によりPCと通信を行うことのできる多機能インテリジェントUPSのことです)

(尚、本文にてUPSilon2000, Windows95, WindowsNTをUPSilon、Win95、WinNTと略記します)

(UPSilonはユプシロンと発音します)

1.1 同梱品

- ◆ UPSilon2000 CD-ROM(またはFD)
- ◆ UPSilon2000 用ケーブル(DB9オス=DB9メス)
- ◆ UPSilon2000 ユーザー・マニュアル(本誌)

1.2 システム環境

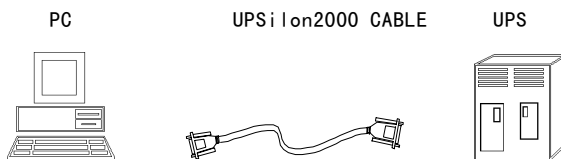
UPSilon2000 ハードおよびソフトに次の環境を必要とします。

- ◆ コンピュータ側にRS232Cシリアルポート(COM1～COM4)
- ◆ RS-232 双方向通信対応のUPS
- ◆ Microsoft Windows 95
- ◆ Microsoft Windows 98
- ◆ Microsoft Windows 2000
- ◆ Microsoft Windows NT v4.0
- ◆ Microsoft Windows ME
- ◆ Microsoft Windows XP
- ◆ Novell Netware v3.1x/v4.x/v5.x
- ◆ Linux
- ◆ FreeBSD

2 ハードウェアのインストール

次の手順にしたがってください。

1. UPSilon2000用ケーブルをPCとUPSにつなぎます。



2. ケーブルのメスをPCに、オス側をUPSにつなぎます。
PC側コネクタが25 pinの場合は市販の9-25pin変換アダプタを用意してください。
3. COM Port 定義 (参考)

	I/O アドレス	IRQ
COM1	3FX	4
COM2	2FX	3
COM3	3E8	4
COM4	2E8	3

警告

- UPSilon 2000専用ケーブルはUPSとの通信専用に使われたものですので、他のRS232C通信には利用できません。ご注意ください。

3 UPSilon 2000 for Windows

3.1 特 徴

- ◆ Windows NT サービスプログラムの対応
- ◆ 多言語の対応(英語・中国語等)
- ◆ 警告のE-mailを自動的に送信
- ◆ 警告メッセージの自動送信
- ◆ TCP/IP又はInternet経由でUPSモニタリングが可能
(他のUPSilon2000をLANで操作)
- ◆ 停電とUPSのバッテリー電圧低下を自動検知
- ◆ オン/オフ自動スケジュール運転の設定
- ◆ UPS状態の表示。温度・電圧・負荷・周波数
- ◆ 警告メッセージのブロードキャスト
- ◆ シャットダウン迄のカウントダウンタイムの設定
- ◆ UPSの自己診断機能の設定
- ◆ シャットダウン前のファイルの自動保存機能
- ◆ UPS状態の記録と分析

3.2 ソフトウェア・インストール

SETUPプログラムを動かすと、“MegaTec/UPSilon 2000”ディレクトリが作成されます。そこに必要なプログラムがインストールされます。

次の手順に従ってください。

1. UPSの電源を入れてください。
2. UPSilon ソフトのCD(またはFD)をCDドライブ(またはFDドライブ)に入れてください。
3. スタートメニューの“run” ボタンで“a:SETUP.EXE”を実行してください。(注:CDドライブの場合は、自動起動されるのでそこでInstallを選ぶか、CDドライブ上のsetup.exeを実行してください)



UPSilon2000

3.3 UPSilon2000の開始とアンインストール

3.3.1 UPSilonのスタートアップ

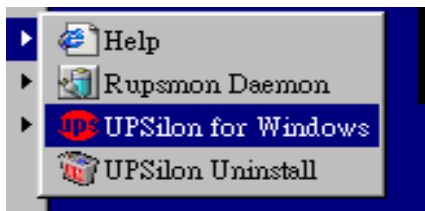
インストール後はWin95/98を再起動してください。Win95/98ではタスクバーの中にRupsmon Daemonがあるか確認してください(次図)。あれば正常です。Win NTの場合は、サービス起動されているか、コントロールパネルで調べてください。



設定を変更したい場合は、タスクバーのRupsmonを右クリックするか、スタートメニューから逐次 選んで該当のUPSilon2000を起動してください。

3.3.2 UPSilonのアンインストール

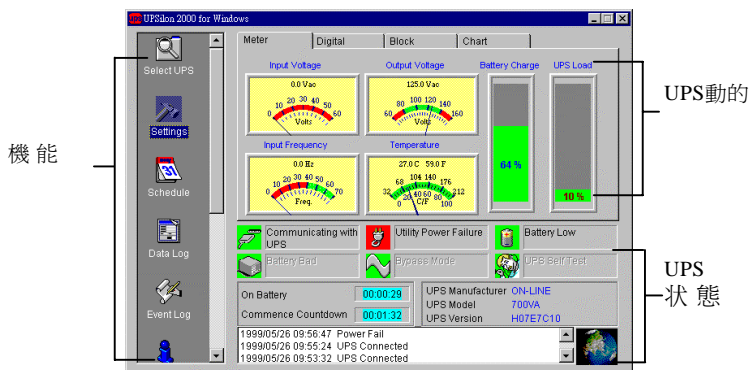
インストールされると下記のように4項目が表示されますので、アンインストールするときは“UPSilon Uninstall”を選んでください。



- ◆ Help : UPSilon ヘルプ
- ◆ Rupsmon Daemon : UPSilon コアprogram
- ◆ UPSilon for Windows : UPSilonのメインプログラム
- ◆ UPSilon Uninstall : UPSilon の削除プログラム

3.4 機能

UPSilonを起動すると次の画面が表われます。



3.4.1 UPS 動的ディスプレイエリア

この領域はUPSの入力電圧、出力電圧、周波数、バッテリー容量、負荷、温度などの情報を表示します。ユーザーはメータ表示、デジタル表示、ブロック図を選択することができます。

3.4.2 UPS状態エリア

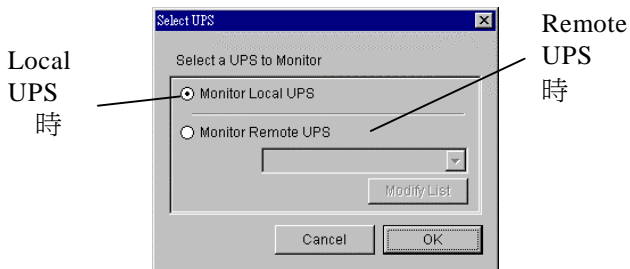
UPSilonソフトウェアインストールの後に、UPSがコンピュータに接続されているかチェックしてください。各項目の色が緑であれば正常です。

3.4.3 ファンクション機能エリア

インストール後に、パラメータ値を自由に設定することができます。それぞれのパラメータ値はUPSilonプログラムの通常の操作に映されます。以下の章に従って各機能オプションのパラメータ値を設定してください。

3.4.3.1 UPSの選択

モニタするUPSについて選択します。ローカルのUPSまたはLANでつながるリモート（遠隔）のUPSのどちらかを選択します。

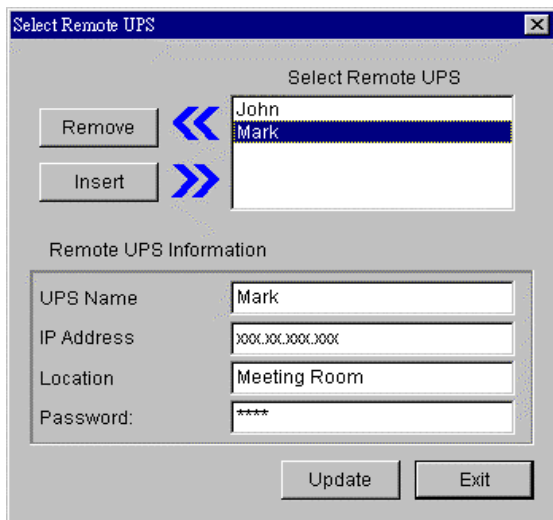


A. ローカルUPSのモニター

ローカル、つまり直接つながったUPSのモニタをします。

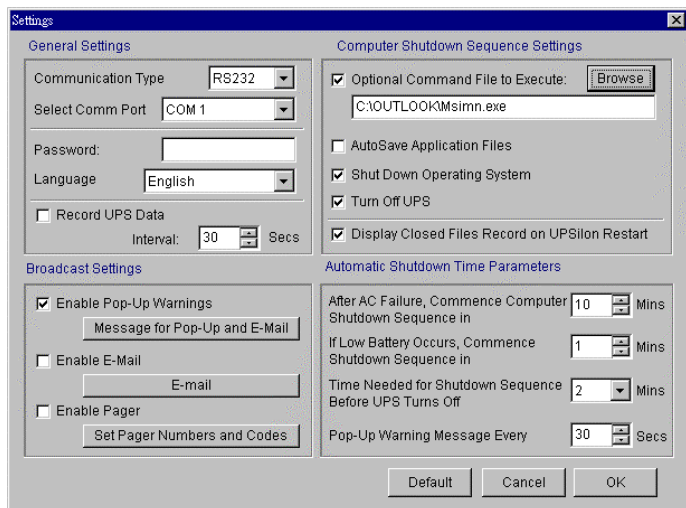
B. リモートUPSのモニタ

- (1) リモートUPSを選択します。LAN上でつながった別のUPSilonが管理するSmartUPSのことです。
- (2) “Modify List” を選んで、既存のデータリストの変更をするか、新規にリストを追加することができます。
- (3) モニタするUPSを選びます。
- (4) リモートUPSのモニタを実行します。



3.4.3.2 設定 (Settings)

UPSを選んで“settings” を押してください。



A. 一般設定 (general settings)

- ◆ Communication Type: RS232/Demo/None
- ◆ Select Comm Port: UPSと通信するためのCOMポートの番号を入力します。(COM1-COM4)
- ◆ Password: 他のUPSilon2000からリモート操作を受けるときのパスワードをここに入力します。
- ◆ Language: 使用したい言語を指定します。

- ◆ Record UPS Data: UPSの入出力データ等を検知する時間間隔を設定します。(p17 データ・ログ参照)

B. コンピュータ・シャットダウン手順の設定

この章ではUPSilonがシャットダウンをするための設定を説明します。

- ◆ Optional Command File to Execute: ここにフルパスでシャットダウン直前に実行するコマンドを入力します。

注意 : 上記での実行プログラムが自動的に終了するものでないと、WindowsのシャットダウンとUPSの停止は正常に行いませんのでご注意ください。

- ◆ Auto Save Application Files: この項目をマークするとUPSilonはファイル名が指定されていない時、オープンされているファイルを仮の名前(例えば~Wnnnn.TMP)で自動保存します。どんな名前でもクローズされたかは機能エリアの“Close Files Record”で参照できます。

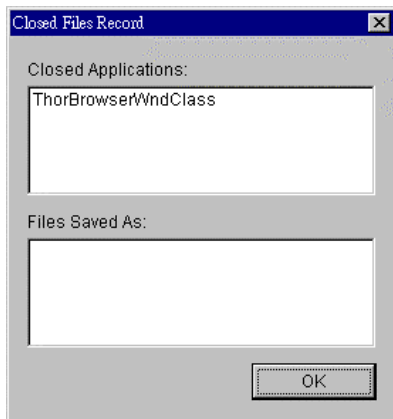
注意 : UPSilonは人工知能により汎用アプリケーションを終了し、ファイルを保存するようにつとめますが、完璧に保存することを保証するものではありません。できるかぎり事前テストをすることをお勧めします。

- ◆ Shut Down Operating System: この項目をマークするとそのOSをシャットダウンします。
- ◆ Turn Off UPS: UPSのAC出力を止めます。

注意 : シャットダウンしてUPSが電源供給を止めた後に、UPSの停止スイッチを押さないでください。復電したときにUPSとコンピュータの自動再起動がうまくいかなくなります。

- ◆ Display Closed Files Record on UPSilon Restart: 項目をマークすると、PCシステムが立ち上がったときに、前回クローズしたファイルを参照してくれます。

(次図)



C. Broadcast の設定

- ◆ Enable Pop-Up Warnings : この項目をマークすると電源異常を検知したときにポップアップ・メッセージを画面に表示してくれます。メッセージの内容はユーザーが任意に書き換えることができます。(次

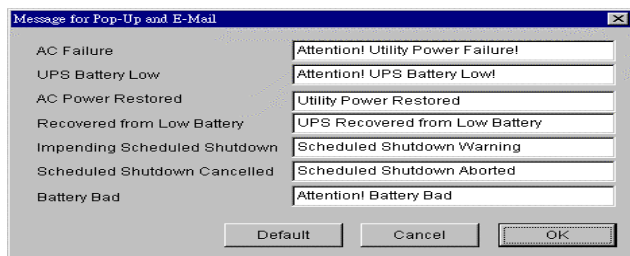
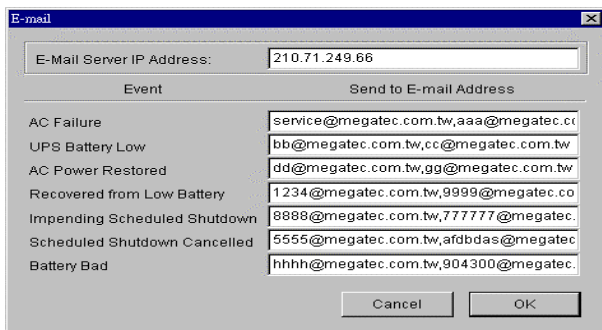


図)

- ◆ Enable E-Mail : この項目では 管理者に送信する E-mail のメッセージの内容を指定します。
- (1) E-mail Server IP Address: MailサーバIPアドレス
 - (2) Send to E-mail Address: 送る相手のE-mailアドレスを入れます。コンマ区切で複数に送れます。



- ◆ Enable Pager : 本機能はページャ(ポケベル)にて、システム管理者にメッセージを送ることを可能にしています。

- (1) Modem connects to: COM1やCOM2などのモデムをつなげるためのCOMポートを設定します。
- (2) Pager number: もしページャの特別ラインを使っている場合はページャ番号を入力してください。もし必要ならば、外線用にプレフィクス・コードを入力してください。そして、”,”をつけ0.5秒の遅延として、その次にページャ番号を付け加えてください。
- (3) Code to send: 信用のイベントコードを入力します。
例: モデムをCOM2につけて、“0”発信で外線接続します。そのときページャ番号は“0,947123456”となり、“#1234#”はAC電源異常を示します。

Event	Pager Number	Code To Send
AC Failure	0,,0947123456	#1234#
UPS Battery Low	0,,0947234567	#112233#
AC Power Restored	0,,0943456789	#33221#
Recovered from Low Battery	0,,0943987654	#959595#
Impending Scheduled Shutdown	0,,0959654321	#19959#
Scheduled Shutdown Cancelled	0,,0959654321	#1111#
Battery Bad	0,,0959223344	#43213#

注意 : コード送信のためのアクションはページャが呼ばれてから20秒以内に行わなければなりません。

D. Automatic Shutdown Time Parameters

UPSはユーザーにバッテリーが消耗しきる前に、OSをシャットダウンすることを可能にします。UPSの特有の設定によってシステムは安全に再起動することができます。

- ◆ After AC Failure, Commence Computer Shutdown Sequence in: 停電発生時の強制シャットダウン開始までの時間を設定します。
 - 設定レンジ : 1 ~ 288 分
 - デフォルト値 : 10
- ◆ If Low Battery Occurs, Commence Shutdown Sequence in: バッテリ電圧が低下になったとき(最大電圧の30%以下)、強制シャットダウンを開始するまでの時間を設定します。安全のため小さい値を入れることをお勧めします。
 - 設定レンジ : 1 ~ 600 分
 - デフォルト値 : 1 分
- ◆ Time Needed for Shutdown Sequence Before UPS Turn Off: シャットダウンを開始してからUPSが電源供給を停止するまでの時間を設定します。シャットダウンが充分可能であるべき時間を入れるべきですが、それはオープンしているファイル数によっても可変となります。本設定には注意をしてください。
 - 設定レンジ : 0.2 ~ 99 分
 - デフォルト値 : 2 分

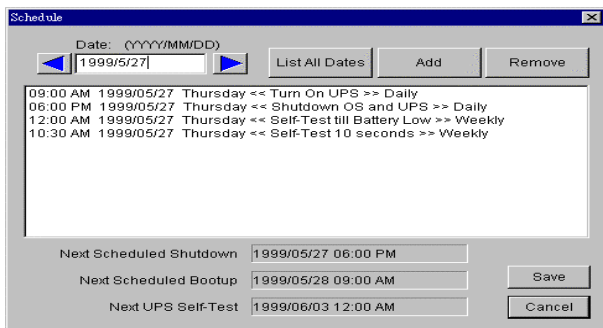
- ◆ Pop-Up Warning Message Every: ポップアップ・メッセージの表示間隔を設定します。
 - 設定レンジ : 10～ 600 秒
 - デフォルト値 : 30 秒

3.4.3.3 スケジュール

UPSilonはUPSのオン/オフとセルフテストをスケジュール運転することができます。よって管理者の手を煩わせることなくシステムを操作することができます。

- ◆ アクション
 - UPSの電源出力オン
 - OSとUPSのシャットダウン
 - UPSセルフテスト(バッテリーLow[30%電圧]まで)
 - UPSセルフテスト(10秒間)
 - UPSセルフテスト(n 分間)
- ◆ 頻 度
 - 一回
 - 毎日
 - 毎週
 - 毎月

設定するにはメニューの中から“Schedule”を押して、左上部の“date”を選んでください。そして“Add”を押してください。アクションと頻度を選択して、“OK”を押せば元の“Schedule”画面に戻ります。そして新スケジュールを画面に確認することができます。“save”を押してスケジュールを確定してください。スケジュールデータを削除したいときは“remove”を押してください。



3.4.3.4 データログ

UPSのデータはここで記録されます。入出力電圧、周波数、負荷率、バッテリー容量、温度等。記録間隔は“general settings” (p10、11)で設定してください。“update”を押せばデータは更新され、“clear”を押せばデータはクリアされます。

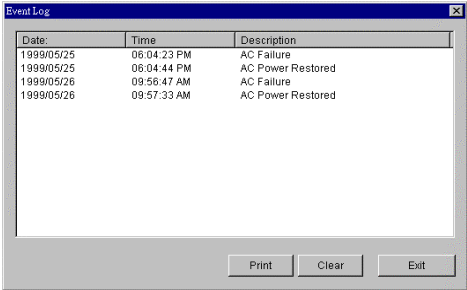
The 'Data Log' window displays the following data:

#	Date:	Input V...	Output...	Input F...	UPS L...	Battery...	Temp...
1	1999/05/27 14:5...	109.0 v	123.0 v	60.0 Hz	10 %	100 %	26.0 C
2	1999/05/27 14:5...	109.0 v	123.0 v	60.0 Hz	10 %	100 %	26.0 C
3	1999/05/27 14:5...	109.0 v	125.0 v	60.0 Hz	10 %	100 %	26.0 C
4	1999/05/27 14:5...	109.0 v	125.0 v	60.0 Hz	10 %	100 %	26.0 C
5	1999/05/27 14:5...	109.0 v	125.0 v	60.0 Hz	10 %	100 %	26.0 C
6	1999/05/27 14:5...	109.0 v	125.0 v	60.0 Hz	10 %	100 %	26.0 C
7	1999/05/27 14:5...	109.0 v	125.0 v	60.0 Hz	10 %	100 %	26.0 C
8	1999/05/27 14:5...	109.0 v	125.0 v	59.0 Hz	10 %	100 %	26.0 C
9	1999/05/27 14:5...	109.0 v	123.0 v	59.0 Hz	10 %	100 %	26.0 C
10	1999/05/27 14:5...	109.0 v	125.0 v	59.0 Hz	10 %	100 %	26.0 C
11	1999/05/27 14:5...	109.0 v	125.0 v	59.0 Hz	10 %	100 %	26.0 C
12	1999/05/27 14:5...	109.0 v	123.0 v	59.0 Hz	10 %	100 %	26.0 C
13	1999/05/27 14:5...	109.0 v	123.0 v	59.0 Hz	10 %	100 %	26.0 C

Buttons: Print, Update, Clear, Exit

3.4.3.5 イベントログ

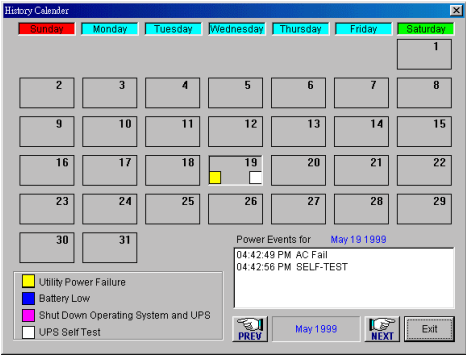
各イベントの日時と状況を本画面で参照できます。



Date	Time	Description
1999/05/25	06:04:23 PM	AC Failure
1999/05/25	06:04:44 PM	AC Power Restored
1999/05/26	09:56:47 AM	AC Failure
1999/05/26	09:57:33 AM	AC Power Restored

3.4.3.6 ヒストリーログ

ここでは月単位に各イベントを確認できます。電源異常、電圧低下、OSとUPSのシャットダウン、UPSセルフテスト等。色の違いがカテゴリの違いを表します。該当する日のブロックを押すとその日の情報が表示されます。“prev”を押すと前月、“next”で翌月が表示されます。



History Calendar

Sunday Monday Tuesday Wednesday Thursday Friday Saturday

1

2 3 4 5 6 7 8

9 10 11 12 13 14 15

16 17 18 19 20 21 22

23 24 25 26 27 28 29

30 31

Power Events for May 19 1999

04:42:49 PM AC Fail
04:42:56 PM SELF-TEST

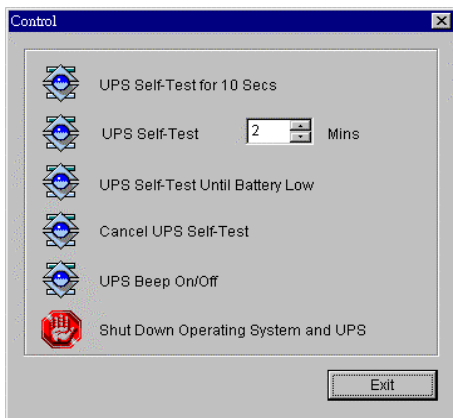
Utility Power Failure
Battery Low
Shut Down Operating System and UPS
UPS Self Test

PREV May 1999 NEXT Exit

3.4.3.7 制御

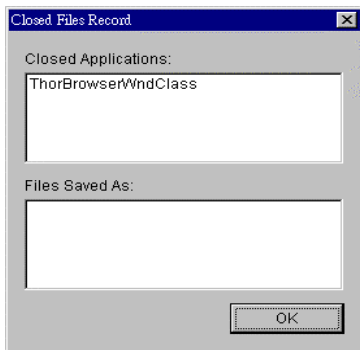
UPSを直接制御する時は“control”を押してください。

- ◆ UPS セルフテスト (10 秒)
- ◆ UPS セルフテスト (n 分)
- ◆ UPS セルフテスト (バッテリーLow[30%電圧]まで)
- ◆ UPS セルフテストのキャンセル
- ◆ UPS ビープ音On/Off (“Q” コマンドサポートの時)
- ◆ OSとUPSのシャットダウン



3.4.3.8 クローズファイルの記録

この項ではクローズするアプリケーションとファイルを確認することができます。方法は“Closed Files Record”を選ぶと、前回の記録が見られます。



3.4.3.9 UPSilonについて

“About UPSilon” をクリックすればコピーライト等の情報を参照することができます。



3.4.3.10 UPSilonの終了

“Exit UPSilon” を押すとUPSilonを終了します。

UPSiIon 2000 – User’s Manual

Copyright © Mega System Technologies, Inc. 1999

Rev. 2.001j
